

# 地域と共に育つ梅の里っ子

若狭町立梅の里小学校

## 1 取り組みの概要

### (1) 地域や家庭と学校の連携実績

項目	回数
地域・学校協議会	3回
中学校区を単位とした協議会	0回
地域及び家庭への学校公開	12回 (のべ12日)

### (2) 地域人材の活用 (のべ人数)

講師・ゲストティーチャー	10人
授業ボランティア (含: 低ボラ)	45人
登下校支援ボランティア	910人
その他 ( 読書ボランティア )	80人

### (3) 特色ある活動

テーマ	ふるさと教育
-----	--------

#### 具体的活動内容

本校の校下は海や湖、川や田畑など豊かな自然環境に恵まれ、特に校名にもある「梅の里」の名の通り、学校の周りは梅畑が広がり、梅を栽培している農家も多い。そうした環境の中、地域の方々も学校の学習活動に対して大変協力的で、児童はいろいろな体験活動に取り組んでいる。

その中の取組の一つとして、毎年、梅栽培農家の協力の下、梅もぎ体験学習を実施している。地域の大切な産業である梅栽培を体験し、農家の人とのふれ合いを通じて、自分たちのふるさとに対する理解と愛着を育むことをねらいとしている。

全校児童が3つの縦割りグループに分かれ、それぞれが3軒の梅園で梅もぎ作業に取り組んだ。各自が腰につけた収穫袋がすぐに青梅であふれるくらい、梅の木いっぱい実った梅の実をがんばってもいでいる姿が見られた。その後、農家の方に梅栽培についての苦労話や仕事に対する思いをお聞きし、キャリア教育の一環としても、子どもたちの確かな勤労観の育成を図っている。



子どもたちがもいだ梅の一部を学校にいただき、梅干作りも行っている。学校菜園で栽培したし紫蘇の葉を児童が揉み、地域の方に教えてもらった手順で梅をつけている。出来上がった梅干しは、給食や感謝祭などでおいしくいただいている。

#### 成果と課題

ふるさと学習を通して地域の方とふれ合うことは、子どもたちにとって地域の方から学ぶことが多く、自分たちが住んでいる地域を知る上で有意義な活動となっている。また、地域の方々に子どもたちの様子や学校の取組を理解してもらう場にもなっている。梅もぎ体験の他にも大敷き網漁業体験や干物づくり、ワカメの養殖体験など地域の特色を生かした様々な体験学習を行っているが、さらに学習したことを関連付けたり系統性をもたせたりして一層充実させていくことが課題である。